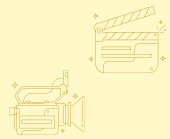


優っくり村乃木坂新聞

どのような職員がいるのか？もっと知りたい！ 職員に質問してみました！

1. 好きな食べ物は 2. 最近のマイブームは？ 3. 休日の過ごし方は？



変わりなく優っくりとした環境の手助けを

【インタビュ記事】



岡島 耕二
おかじま こうじ

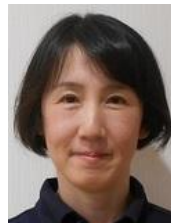
1. お刺身
2. ヘビメタ(1970-1990)
3. 睡眠

介護職について奉養会4年目で目黒区から港区への引越に併せて、事業所も目黒中央(特養)から乃木坂多機能に移動されて1年が経たれています。前職は各企業のデザイン部門グラフィックデザイナーを二十歳から四十年間続け定年退職。その後は家族と過ごすため近隣の職場を探していたところ目黒中央へ入職し介護の世界と出会うことになる。

介護職をやり始めて感じた事は、要介護5の方といつも一緒に散歩をしている場面や、自身が介護をしている様々な場面で、いつの間にか当然のように介護ができていて自分に気が付き、前職とは全く違う自分の姿にびっくりした事だった。それと現在もデザイナーになった時に考えた働く事への基本的な理念・理想を持っていた、「全ての人に喜んで頂く事や楽しんで頂く事、素晴らしい環境が揃ったとしても同じ。働く中で考えさせられる場面もあるが、仕事への姿勢は根本的に変わることはない」との事だった。

挑戦と利用者様の喜びのために

【インタビュ記事】



金子 嘉美
かねこ よしみ

1. くるみ
2. 登山・釣り・本屋に行く
3. 回転ずしに行くこと

前職は出版社に勤めておりましたが、母の介護をきっかけに地域のボランティアへ参加し、介護の道に進みました。ケアマネジャーや周囲の方々に助けられる中で、人とのつながりの大切さを実感。気づけば介護職に携わって6年になります。

仕事で心がけているのは、「現状に慣れない」と「限界を決めないこと」。これは以前の上司からいただいた言葉で、今も大切にしています。乃木坂ではお菓子作りにも挑戦中です。きっかけは利用者様からの「スナックは嫌という一言。それ以来、手作りの温かさを感じていただけるよう工夫を重ねており、利用者様から「おいしい」と言われると大変うれしく思います。

趣味は高尾山など低めの山をのんびり歩く登山です。自然の中で心をリセットし、仕事へのエネルギーをいただいています。利用者様やスタッフの皆さんと関わる時間は、日々の喜びであり活力です。これからも、自分のできることを丁寧に、安定してお届けしていきたいと思っています。



「手作りお菓子」優しいひと手間」

乃木坂では、毎日午後3時のおやつ時間に、職員が心を込めて手作りしたおやつを提供しています。「皆さんに少しでも喜んでいただきたい」という温かい想いから、毎日手作りを続けている取り組みです。

これまでに提供したおやつには、「紅茶シフォンケーキ」「ベジタブルケーキ」「小豆アイス」「ようかん」「ミニパフェ」「ドーナツ」など、どれも工夫が凝らされたメニューが並びます。季節感や栄養バランスを考慮しながら、バリエーション豊かに用意しています。

なかでも意外な一品として話題になったのが、すりおろしたニンジンに牛乳と干しブドウを加え、フルーツを添えたおやつです。「おかず？ おやつ？」と半信半疑の声も聞かれましたが、提供するとすぐに「美味しいわ」と笑顔が広がり、即完売となりました。

乃木坂では、極力「乾き物」のおやつを避け、手作りで柔らかく、体に優しいものを提供することを大切にしています。これからも、ご利用者様の笑顔と健康のために、職員一同、愛情を込めたおやつ作りを続けてまいります。





『介護という新たな世界へ』

日本は世界でも有数の超高齢社会を迎え、介護のニーズがますます高まっています。しかし、その一方で深刻な人手不足が課題となっています。そこで地域や行政、介護事業所が丸となり、介護分野での「就業促進」に力を注いでいます。優つくり村でも「就業促進」に取り組んでいます。また未経験の方でも安心してスタートできる環境づくりが進めており、例えば資格取得を全面的にサポートする制度や充実した研修体制を整え、介護の仕事に挑戦する方々の成長をしっかりとバックアップしています。研修を通じて介護の専門的なノウハウや実践スキルをしっかりと学ぶことで、介護サービスの質が大きく向上させられるよう活動しています。



7月のイベント 『七夕の願い事』

7月7日の七夕に合わせて、当施設ではご利用者様と一緒に短冊を飾りました。今回の七夕の飾りは、隣接施設の保育施設「あつび」さんの子どもたちにもご参加いただきました。笹の木は、ご利用者様様のご家族のご厚意により、お庭から一本ご提供いただき、立派で素敵な七夕飾りを作ることができました。「美味しいご飯が食べたい」「みんなが元気でいられますように」など、ご利用者様は思い思いに願い事を書いてくださいました。参加してくれた子どもたちやご家族の皆様も、たくさんのご願い事を短冊に書いてくださり、その様子を微笑ましく拝見いたしました。七夕のおやつには、七夕にちなんだ手作りデザートが提供され、「とてもきれいな『美味しかったわ』、たくさんさんの喜びの音が聞かれました。七夕の由来は、中国の伝説に基づいており、織姫（こと座のベガ）と彦星（わし座のアルタイル）が、天の川を隔てて住み、年に一度、7月7日の夜にだけ会えることができるというロマンチックなお話です。年齢を問わず、願いを込めて心をなぐ七夕の行事は、地域交流の場としても温かなひとときとなりました。



7月の猛暑が続いた日々から一転、涼しい雨が降る過ごしやすいい日が続いた。外出レクリエーションの一環として、赤坂にある「水川神社」への訪問を実施いたしました。水川神社は港区の中心に位置しながらも、都心とは思えないほどの静けさと澄んだ空気に包まれており、訪れる人々に癒やしを与えてくれる場所です。境内には、樹齢数百年を超えるとみられる大木が立ち並び、歴史を感じさせる灯籠や社殿が、厳かな雰囲気を出しています。この日ご参加されたご利用者様の一人は、「港区に長年住んでいますが、こんな素敵な場所があるとは知りませんでした」と目を輝かせて話してくださいました。境内の一角には、大型の神輿が展示された建物もあり、その迫力に職員もご利用者様も思わず見入ってしまう場面がありました。水川神社は、1889年に建立され、関東大震災や東京大空襲といった幾多の災害を免れ、現在もその姿を保っているそうです。参加した職員からは、「まるでタイムマシンに乗って江戸時代に戻ったかのような雰囲気でした」との感想もあり、神社の持つ歴史的価値と魅力に心を動かされた様子が見えたり聞かれました。港区の喧騒を忘れてさでくれるこの神社は、地域に暮らす方々だけでなく、訪れるすべての人にとって、心安らぐ憩いの場となっています。

『神社巡礼』第二弾』

『現在、空がございます!!』



和田 直大

わだ ちひろ



加藤 仁啓

かとう よしひろ

【支配人・ケアマネ】

【介護支援課長】

ご利用案内登録定員：25名

通い：1日15名まで

泊まり：個室9室（1日）

訪問：制限なし（ご希望に応じて対応）

・看護師が毎日常駐

・理学療法士在籍／リハビリ評価も実施 - 送迎対応港区全域に対応！

- 医療・リハビリも安心 -

（所在地）〒107-0052
東京都港区赤坂9丁目4-2 パークコート赤坂檜町ザタワー2階
（問い合わせ）03-6804-5267

